

4 定員管理

(1) 学生収容定員と在籍学生数の比率の適切性

現状の説明

本学の平成15年度の入学定員は、520名、総収容定員は2,129名（旧経営情報学部を含む）である。それに対して、在籍学生数は2,565名（平成15年5月1日現在）である。在籍学生数の総収容定員に対する比率は121%である。（詳細は、大学基礎データ「Ⅲ 学生の受け入れ」「2 学部・学科の学生定員及び在籍学生数」のとおり。）

点検・評価

センター入試導入直後、歩留まりの読み違いにより学科によりばらつきがあるが、全体としては適正な範囲と評価できる。

長所と問題点

定員を充足している点は良い。しかし、学生は千葉県内高校出身者が多い点、学科間に人気のばらつきがあることは注意を要する。

将来の改善・改革に向けた方策

今後は、学科間における定員の移動、学科横断型の魅力ある情報基礎教育の実施、学科名称の変更、教育の重視などの方策を複合的に実施し、現在の定員充足を守ることが大切である。

(2) 定員超過の著しい学部・学科等における定員適正化に向けた努力の状況

現状の説明

現在、学部全体としては、定員超過率は130%以下であるが、旧学部の情報学科と情報文化学科において139%と134%となっている。

点検・評価

歩留まりが不安定な中、定員遵守を目標に合否判定を行う努力をしていることは評価できる。

長所と問題点

センター入試による歩留まりが安定しないこと。一般入試の歩留まりにも学科間のばらつきと不安定さがある点が問題である。

将来の改善・改革に向けた方策

弱含みの学科について安定的な志願者を確保することが重要である。本学では、千葉県下の高校からの志願者が多いため、千葉県下での弱含みの学科を重点的にアピールする入試広報活動、高校訪問をとるなどの方策を立てることが必要である。

(3) 定員充足率の確認の上に立った組織改組、定員変更の可能性を検証する仕組みの導入状況

現状の説明

経営情報学科と環境情報学科の志願者が減少傾向にある。本学では、学長のリーダーシップの下、入試検討委員会、将来構想検討委員会が定員充足率の確認の上に立った組織改組、定員変更の可能性を検討している。

点検・評価 長所と問題点

学長のリーダーシップの下、入試検討委員会、将来構想検討委員会が組織的に検討していることは評価できる。

将来の改善・改革に向けた方策

経営情報学科の志願者が減少傾向にあるのは、社会の経済活動の停滞に比例している。このことは本学の自助努力だけでは解決できない問題である。他方、高校生にIT技術、コンピュータを学ぶことが情報を学ぶことであるとの誤解があり、ITを全面に押し出していない経営情報学科、環境情報学科に志願者数の面では弱点が出てきている。本来、情報を学ぶことはIT技術を学ぶことだけではないが、情報教育を全面に出した教育、学科の組織変更、定員変更は不可避と言える。

5 編入学者、退学者

(1) 退学者の状況と退学理由の把握状況

現状の説明

昭和63年に開学した本学「経営情報学部」および平成13年に改組した「総合情報学部」の過去5年間の退学者（除籍者を含む）の状況は、下表のとおりである。

	経営情報学部			総合情報学部			合計		
	収容 定員	在学者数 (充足率)	退学者数 (率)	収容 定員	在学者数 (充足率)	退学者数 (率)	収容 定員	在学者数 (充足率)	退学者数 (率)
H11年度	2,040	2,504 (122.7)	98 (3.91)				2,040	2,504 (122.7)	98 (3.91)
H12年度	2,024	2,496 (123.3)	85 (3.41)				2,024	2,496 (123.3)	85 (3.41)
H13年度	1,514	1,835 (121.2)	62 (3.38)	552	658 (119.2)	39 (5.93)	2,066	2,493 (120.7)	101 (4.05)
H14年度	1,004	1,188 (118.3)	31 (2.61)	1,088	1,331 (122.3)	67 (5.03)	2,092	2,519 (120.4)	98 (3.89)
H15年度	494	618 (125.1)	10 (1.62)	1,635	1,954 (119.5)	52 (2.66)	2,129	2,572 (120.8)	62 (2.41)

※在学者数の（充足率）は、収容定員に対する在籍者数の割合（％）

※退学者数の（率）は、在学者数に対する退学者数の割合（％）

退学希望者に対しては、所属のゼミ（1・2年次は基礎ゼミ、3・4年次は専門ゼミ）担当者が必ず面接を行い、これまでの経過や退学の理由を確認する一方、退